

《担当者名》○小野 誠司、前田 秀彦（川）

【概要】

臨床生理学IIでは、脳神経系、運動系および感覚系の機能を評価するために、非侵襲的に計測する脳波、筋電図、眼底写真、聴覚、平衡機能、サーモグラフィおよび味覚、嗅覚検査について、その原理、検査法、正常像、病的所見および診断的意義を理解する。また、被験者への検査説明のポイントなど、検査の円滑な進行のために必要なことを学び、卒業後に医療現場で役立つ技術と能力を習得する。特に臨床的なものと実際の検査に関係するものとの2つに分けて講義を行う。

【学修目標】

- 1) 臨床生理学検査に用いる検査器具・機器の正しい使用方法、および評価・管理方法を理解する。
- 2) 臨床生理学検査において計測対象となる生理現象を説明できる。
- 3) 依頼項目に適した臨床生理学分析手法を説明できる。
- 4) 臨床生理学で使用する計測機器に関して測定精度保証の方法を説明できる。
- 5) 使用機器や測定方法により測定値が異なる原因を説明できる。
- 6) 測定対象項目の測定に影響を与える生理現象並びに環境要因などを説明できる。
- 7) 神経・筋疾患を説明できる。
- 8) 病院等で実際に行われている検査を説明できる。
- 9) 各疾患の臨床像を把握し、正しい検査結果を出すことにより臨床検査技師としての責務を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	・臨床生理学 についてのガイダンス	小野誠司
2	神経生理 1 脳の理解	・脳活動と神経活動 ・脳の機能局在 ・神経の働きと神経細胞を学ぶ 生理機能検査学77P-82P	小野誠司
3	神経生理 2 脳波 1	・脳波計の構造と機器の理解 生理機能検査学83P-98P	小野誠司
4	神経生理 3 脳波 2	・正常脳波を理解し、脳波の計測方法を学ぶ 生理機能検査学97P-104P	小野誠司
5	神経生理 4 脳波 3	・各種異常脳波を理解する 生理機能検査学99P-126P	小野誠司
6	神経生理 5 誘発脳電位	・誘発脳電位の基礎を学び、神経の伝搬経路を学び解剖を理解する。 生理機能検査学126P-129P	小野誠司
7	神経生理6 誘発脳電位2	・各種誘発反応聴性脳幹反応・体性感覚誘発電位・視覚誘発電位を学び、波形の特徴と正常・異常を学ぶ 生理機能検査学126P-133P	小野誠司
8	神経生理7 末梢神経と筋活動	・末梢神経と筋電図の基礎 生理機能検査学134P-137P	小野誠司
9	神経伝導検査	・末梢神経伝導検査 基礎 生理機能検査学146P-158P	小野誠司
10	神経生理	・末梢神経伝導検査 異常波形と疾患の理解 生理機能検査学157P-168P	小野誠司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	筋電図	・ 針筋電図や表面筋電図の理解と疾患 生理機能検査学137P-146P	小野誠司
12	神経生理	・ 術中モニタリング基礎 ・ 運動誘発電位基礎 配付資料	小野誠司
13	神経生理	・ 術中モニタリング応用 ・ 運動誘発電位応用 配付資料	小野誠司
14	耳鼻科における聴力検査の実際	耳鼻科で行われる聴力検査を学ぶ。オージオメトリや 他覚的聴力検査 配付資料	前田秀彦
15	総理解	・ 各回の内容について解説を行い理解を深める ・ 臨床における測定のパットフォールを確認する ・ 病態と測定値の関係について症例検討を行う	小野誠司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度 20% 定期試験 50%

レポート 30%

毎回の講義内容をまとめたレポートをA4用紙に記載して提出する。目的、方法と材料、結果、考察、引用文献を必ず記載すること。関連する文献等の調査学習が行われているかを5段階評価する。定期試験の成績も考慮し総合的に評価。

【教科書】

臨床検査学講座 第4版 生理機能検査学
プリント

【備考】

必要に応じて資料を用意し配布する。

Google formを利用して、レポート提出と事前課題への回答を行う

【学修の準備】

生理学の教科書などで実習項目に必要な生理学的知識を確認し、検査の意義、使用する機器の安全性、検査方法の手順、専門用語などを教科書や参考書などで調べ準備しておく。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

小野誠司（臨床検査技師）、前田秀彦（言語聴覚療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験を活かし、実際の医療現場で行われている各種神経生理検査を実例とともに講義を行う